

むらの底力 郷土玩具職人 (商家：瀬戸物の店)

芝原人形

(しばはらにんぎょう)

芝原人形は浅草の今戸焼の流れを汲む土人形で、明治初期から長南町芝原で作り続けられてきた郷土玩具で、地元では「しばらにんぎょう」と呼ばれています。

粘土板を抜型に入れ、取り出して乾燥、素焼きし、胡粉をかけ、群青や朱などの泥絵具で彩色した素朴な味わいのある人形です。



千葉 惣次氏 (長南町)

明治初期、長南町の田中金蔵氏が地元の粘土で人形を製作したのが始まりです。3代目が死亡して一時途絶えたが、陶芸家の千葉氏が芝原人形を復元し、四代目を継承した。